

第8回 日本リハビリテーション医学会 秋季 学会報告

運動機能科学領域 近藤 颯人

2024年11月1日（金）～3日（日）に岡山県岡山市にある岡山コンベンションセンターにて、第8回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会が開催されました。学会テーマは「リハビリテーション医学の広がり」となっており、あいにくの台風にも見舞われましたが、リハビリテーション医療に包括的に関与する多職種が参加していました。

私は学会最終日となる11月3日に岡山シティミュージアムにて、「回復期リハビリテーション病棟に入院した脳血管疾患患者の転帰先に影響する因子の検討」という演題でポスター発表を行いました。現在、私が勤務している回復期リハビリテーション病院において、脳血管障害を呈した患者様の自宅退院に関連している要因は何なのか？を調査しました。その結果、“入院時に家屋訪問を実施している”、“入院時点での運動機能が高い”ことが自宅退院に関連していると分かりました。3分間の発表と2分間の質疑応答という限られた時間の中、活発な議論ができたことは自身の成長に繋がり、考えの幅が広がったと感じています。シンポジウムや口述発表への出席のみならず、ポスター会場では他府県の大学院生らの発表を聞き、コミュニケーションをとる機会もありました。年齢や職種は異なりますが、同じ境遇にある方々との会話は良い刺激となり、論文執筆に奮起する気持ちも一層強くなりました。

現在に至るまで、シングルケースの発表機会はあったものの、研究報告やポスター作成は初めての経験で少し不安がありました。より良い発表から同演題での論文投稿を見据えた指導を本学指導教員の今岡先生のみならず、職場の上司からも多く賜りました。本研究活動においても、既存のデータベースを活用した研究デザインとなっており、大学院での学びには職場の理解や協力が必要不可欠であるということを再認識しました。また、今岡先生のお声掛けにより参加させて頂いている、介護予防事業や産業リハビ

リテーションなど、地域を対象とした研究活動にも目を向けながら、他学会においても活躍の場を拡大していきたいと実感しました。

年に1回以上の学会発表を目標としてきた中、自身の考えを整理し、どのようにすれば発表の意図が相手に上手く伝わるのかを意識した話し方や資料作成のスキルは、院外での活動において特に重要であると感じています。発表に至る過程も大切にしながら今後も学会発表に励み、その先の論文投稿や専門資格の取得にも邁進していきたいと思っています。

